

現場研修事業の概要

1. 石巻南浜津波復興祈念公園 国営追悼・祈念施設整備事業 …… 宮城県石巻市南浜町地区



宮城県石巻市は、東日本大震災により約4千人が亡くなられた国内最大の被災市町村です。その中でも旧北上川河口部に位置する南浜地区（南浜町、門脇町及び雲雀野町）は、震災により500人以上の方々が無くなられた甚大な被害を受けた地区で、地震、津波、火災及び地盤沈下といった複合的な被害を受け、東日本大震災の平野部の被災を代表する場所となっています。

震災後、南浜地区では災害危険区域が指定され、防災集団移転促進事業が進められました。そして跡地は震災のシンボルとなる公園として、国、宮城県、石巻市の連携のもと、約38.8haの都市公園として整備することになりました。公園の基本理念は、東日本大震災によりお亡くなりになられたすべての生命への追悼の思いとともに、まちと震災の記録をつたえ、生命のいとなみの杜をつくり、人の絆をつむぐ、としており、平成29年3月に工事着工し、公園は令和3年3月28日に開園、公園内にあるみやぎ東日本大震災津波伝承館も令和3年6月6日に開館しました。

2. 旧北上川河口部の復旧復興とかわまちづくり …………… 宮城県石巻市中央地区

古くから川湊（かわみなと）として栄えてきた石巻市は、市街地の旧北上川沿いにほとんど堤防がなく、東日本大震災で壊滅的な被害を受けました。津波・高潮・洪水の被害から石巻市街地を守るため新たに整備する旧北上川の堤防とまちづくりと連携させ、市民や学識者の意見も取り入れた「かわまちづくり」により賑わいのある水辺空間を創出しています。



3. 「3.11伝承ロード」の取組みについて

2011年3月11日に発生した東日本大震災により、東日本の太平洋沿岸500kmにも及ぶ広い範囲が甚大な被害を受けました。被災地ではそのような被害の実情や貴重な教訓を伝えていくための施設が多く整備されています。しかしながら、それらの震災伝承施設は、複数の県にまたがる広大なエリアに数多く点在し、これらの情報を集め限られた時間で巡ることは容易なことではありません。そのため、目的や時間に応じて効率的に施設を訪問できるように、伝承施設情報を分類整理して提供し、案内マップや標識を設置しネットワーク化することとしています。

このように、震災伝承施設をネットワーク化する「3.11伝承ロード」は、「震災伝承のプラットフォーム」であり、地域の防災力の向上と被災地の地域振興を目指すものです。

① みやぎ東日本大震災津波伝承館

..... 宮城県石巻市南浜町地区

本施設は、石巻南浜津波復興祈念公園内に位置し、国が案内所や休憩所となる建物を整備し、宮城県が震災の実情と教訓を後世に伝える展示施設を建物内に整備しています。

展示施設は「かけがえのない命を守るために、未来へと記憶を届ける場」というコンセプトのもと、津波の映像や被災者の証言等により、被災の状況や津波から尊い命を守るための教訓等を伝えています。



② 石巻市震災遺構大川小学校

..... 宮城県石巻市釜谷

当地区では、東日本大震災の津波により、大川小学校の児童・教職員84名、大川地区全体で418名の方々が犠牲となりました。

石巻市では、この事象と教訓を伝えつづけるために学校を震災遺構として残しました。

本施設は、いのちについて考える場所となっています。



③ 南三陸震災復興祈念公園

..... 宮城県本吉郡南三陸町

南三陸町では、東日本大震災によって犠牲となられた方々の追悼・鎮魂の場として、また、甚大な被害の記憶や教訓を継承し、震災からの復興を祈念する場として、「南三陸町震災復興祈念公園」の整備を行いました。

令和元年から順次段階的に開園し、令和2年10月12日に旧防災対策庁舎を含むエリアを加え、全体開園しました。

震災復興祈念公園と志津川市街地を繋ぐ「復興を感じる回遊動線」としての役割を担う「中橋」も、隈研 吾氏のデザインにより、震災前の木造橋を想起させるウッドデッキ橋として復旧しました。

